

アメリカ合衆国ニューメキシコ大学研修プログラム・国際交流協定調印式のご報告

2023年2月10～19日（8泊10日）の日程で、文部科学省特別経費「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業からの補助金および長崎大学（以下本学）学長裁量経費の支援を得て、本学薬学部薬学科4年生2名と東京大学薬学部薬学科5年生1名がアメリカ合衆国ニューメキシコ大学（UNM）研修プログラムに参加しました。本プログラムは、①海外での臨床薬剤師の活躍を見学し、日本との差異を体験することでもって、高度先導的薬剤師の養成に資すること、②英語によるコミュニケーション能力、異文化に基づく研究・教育の多様性を理解する能力、自ら進んで討議に取り組む主体的な態度などを身に付けることにより、総合的で実践的な英語能力を養うことを目的としています。

本プログラムは2018年11月に開始したもので、今回で3回目となります。しばらくパンデミックにより開催できていませんでしたが、Withコロナということで3年ぶりに開催することができました。今回はUNMに留学中の本学薬学部准教授1名が3人の学生を迎い入れる形での開催でした。本学・UNM間の全学的な国際交流協定を締結する調印式も同時開催され、ウェルカムランチには学長、学部長、学生が出席するという特別なプログラムとなりました。

2/13のランチタイムセミナー、代替医療を学ぶ選択科目における東洋医学の講義は西田学部長も参加・体験され、学生の熱心な聴講態度を見ることができ、本プログラムの意義を再確認していただけました。学部長同士の会談では、今後の国際交流について議論が交わされ、引き続き活発な交流を行うことを確認しあいました。2/14はペインセンターの見学、午後には本学の河野学長とUNMのStokes学長による国際交流協定の調印式が執り

行われ、今後両校の交流を発展させることが確認されました。その間、学生たちは講義の聴講およびキャンパスツアー（多くのUNMグッズを売っているBook Storeなど）を行いました。2/15は地域の薬局3軒を訪問し、特にCompounding Pharmacyでは薬局自家製剤の調合を見学できました。[Project ECHO](#)（オンライン症例報告を通じて多職種がそれぞれ教育しあうモデルで、僻地の多いニューメキシコに特徴的な取り組み）にも参加しました。2/16は、双方の学生による研究紹介があり、英語で自分の研究を紹介する貴重な機会となりました。午後には、UNM病院薬剤部を訪問し、病院の規模に驚きました。2/17には毒性管理センターを訪問し、toxicologyに関連した授業で学生が調べたことを主体的にプレゼンしている様子が印象的でした。

空いた時間には現地視察としてオールドタウン（お土産のお勧めドリームキャッチャーを売っています）、インディアン Puebloカルチャーセンターやアルバカーキ博物館などを訪問しました。会員制業務用スーパーCostco（中に薬局もあります）では学生の皆さんがお土産としてアメリカンなお菓子を大量に買い込んでいました。またUNMの女子バスケットボールチームLobos vs. Wyomingのナイターゲームを観戦し、大熱狂でした（ちなみにめでたくLobosが勝利しました）。

参加した学生の声として、「薬剤師が日本より幅広い業務（ワクチン接種など）を行える事に驚いた」、「臨床教育が充実していて、教育の重要性を再認識した」、「薬学教育と薬剤師の役割について考えるきっかけになった」とあり、大好評だったようです。また、英語でのコミュニケーションも十分に取れていました。今後も、このようなプログラムを継続して行うことが重要と感じました。

※関連ホームページ：[長崎大学ニュースページ](#)；[UNM ニュースページ](#)；[薬学部国際交流ページ](#)

現地での様子



ウェルカムランチ (ニューメキシコ料理)



A-Fib Screening Event 体験



UNM 薬学部前にて



サボテンと一緒に



Compounding Pharmacy にて



研究紹介の様子



調印式



学長、学部長、教員、学生集合写真



アメリカンな夕食



バスケットボール観戦